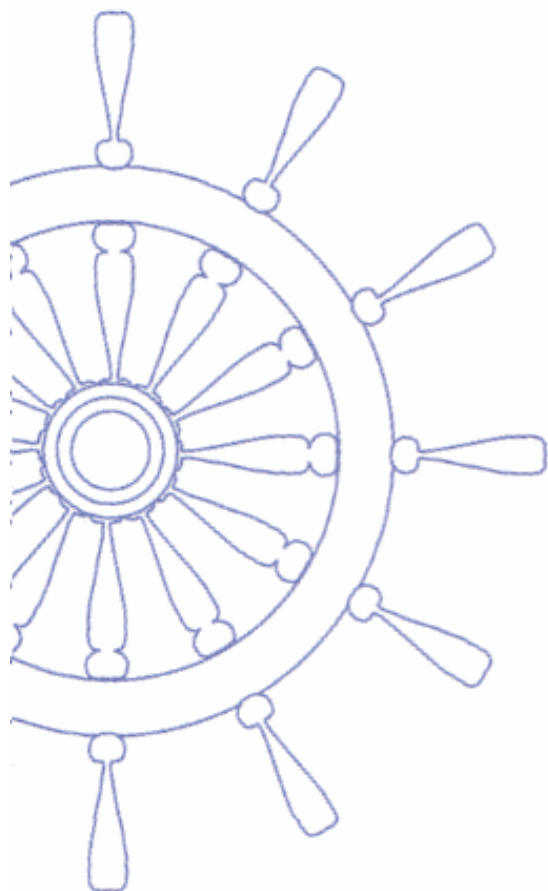


個人投資家が日本を変える

環境省：環境と金融に関する懇談会



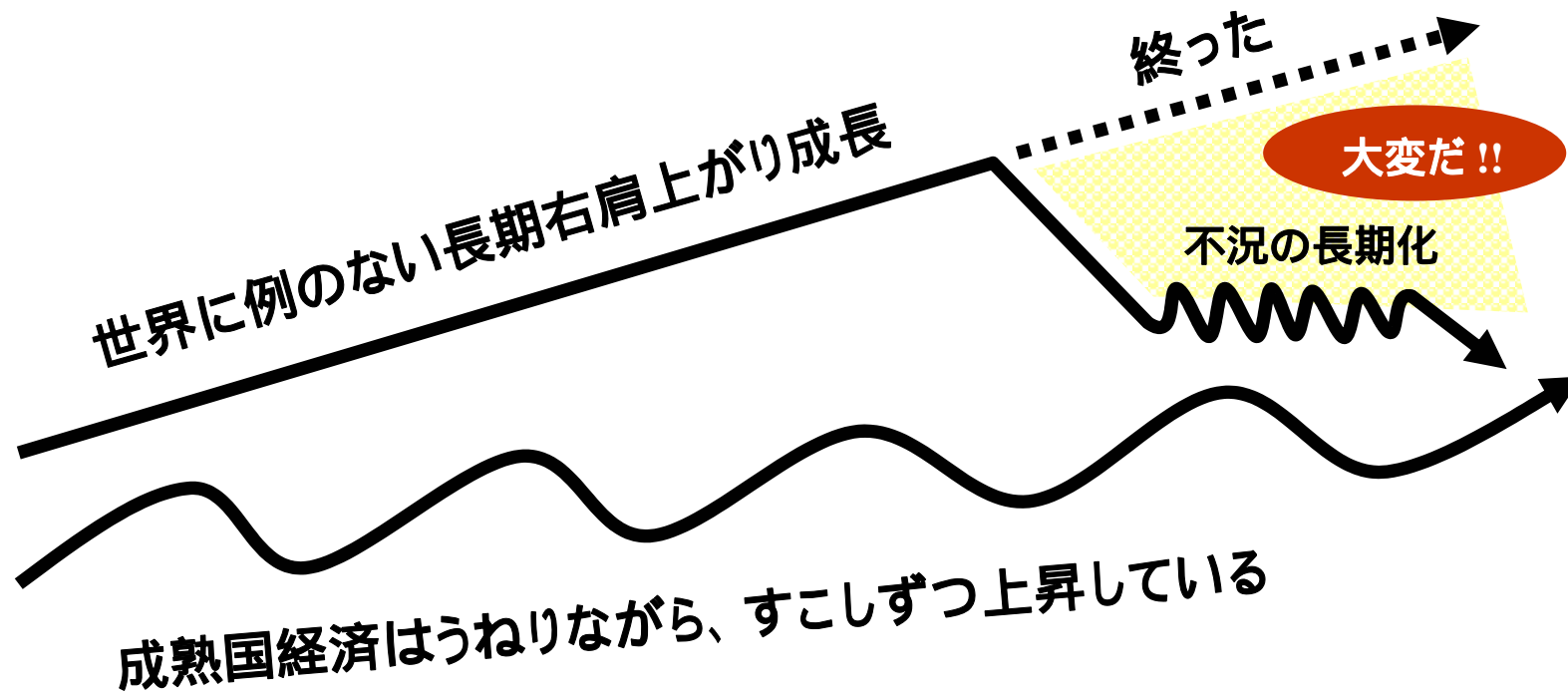
平成18年 6月 5日

さわかみ投信株式会社

代表取締役 澤上 篤人

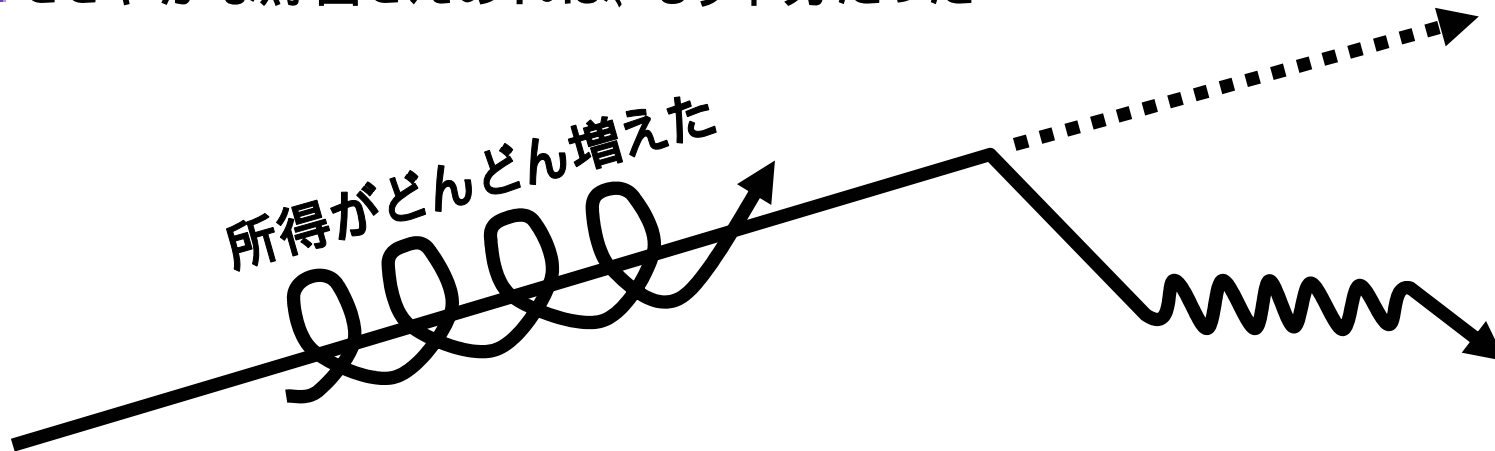
[1] 日本経済は発展途上型から、成熟国型へシフトした

- ◆ 大変だと騒ぐが、長期右肩上がりの発展段階が終わっただけのこと
- ◆ 先進国と同じ経済パターンになってきたが、その対応ができていない



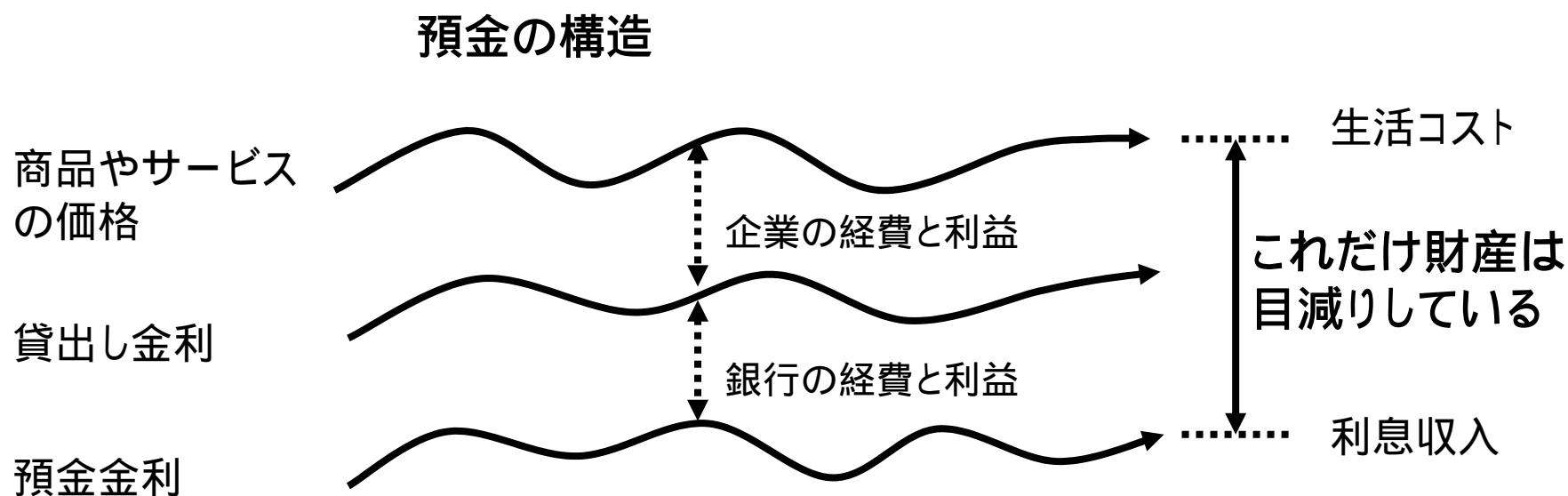
[2] これまでは、預貯金中心で十分だった

- ◆ まじめに働いていれば、会社が定年後の職場も世話してくれた
- ◆ 定収入がある間に子供は片づくし、住宅ローンも払い終えた
- ◆ 残るは老夫婦の生活だけ
- ◆ 持ち家はあるし、年金も確実にもらえた
- ◆ ささやかな貯蓄さえあれば、もう十分だった



人生設計に狂いの生じない時代が終った

[3] 預貯金では、財産づくりにならない



これまでは気がつかずに済んだ

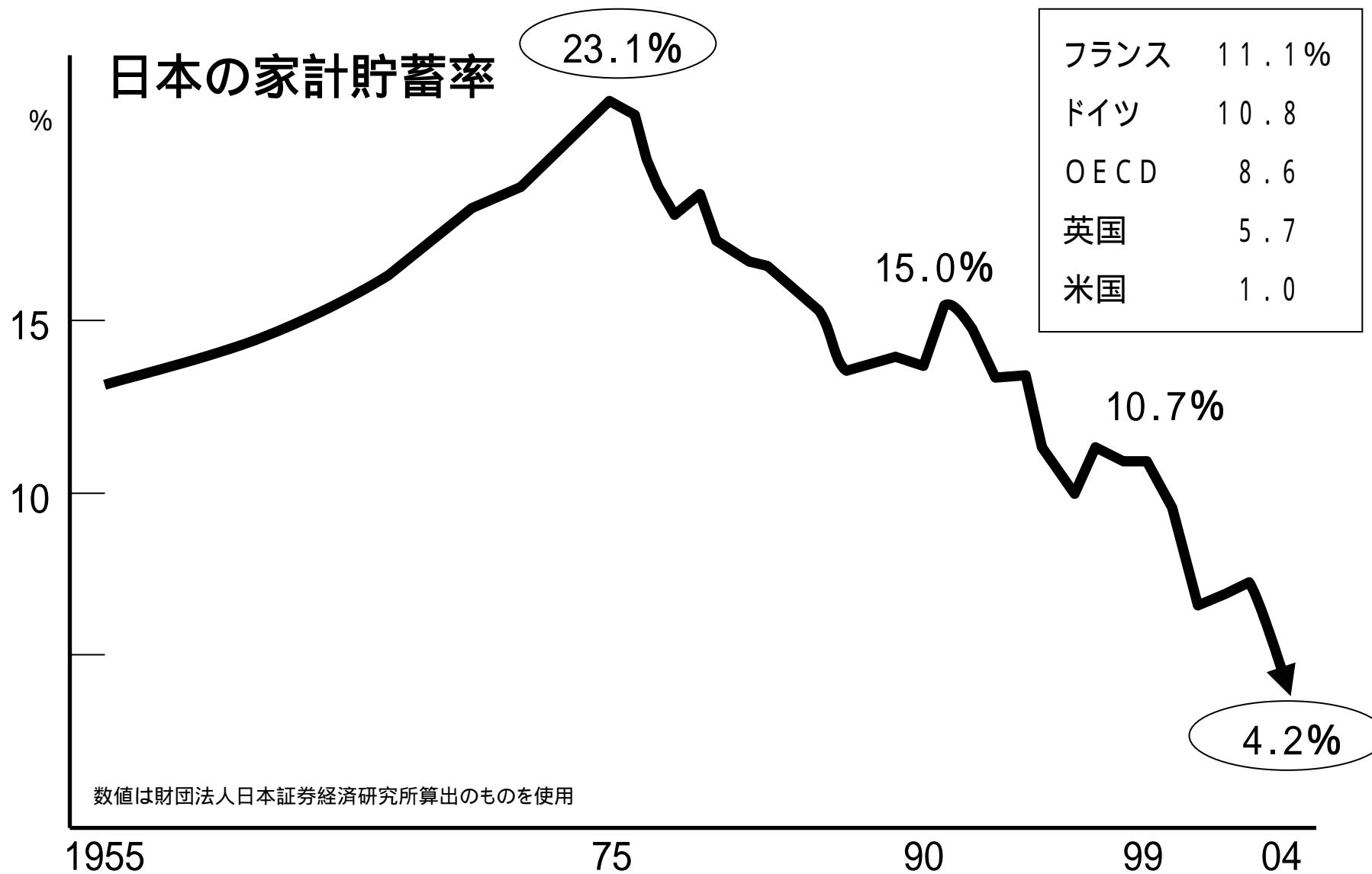
↓ それだけ所得の伸びが大きかった

貯蓄の食い潰し

↓ 預貯金では財産づくりにはならないことを認識する

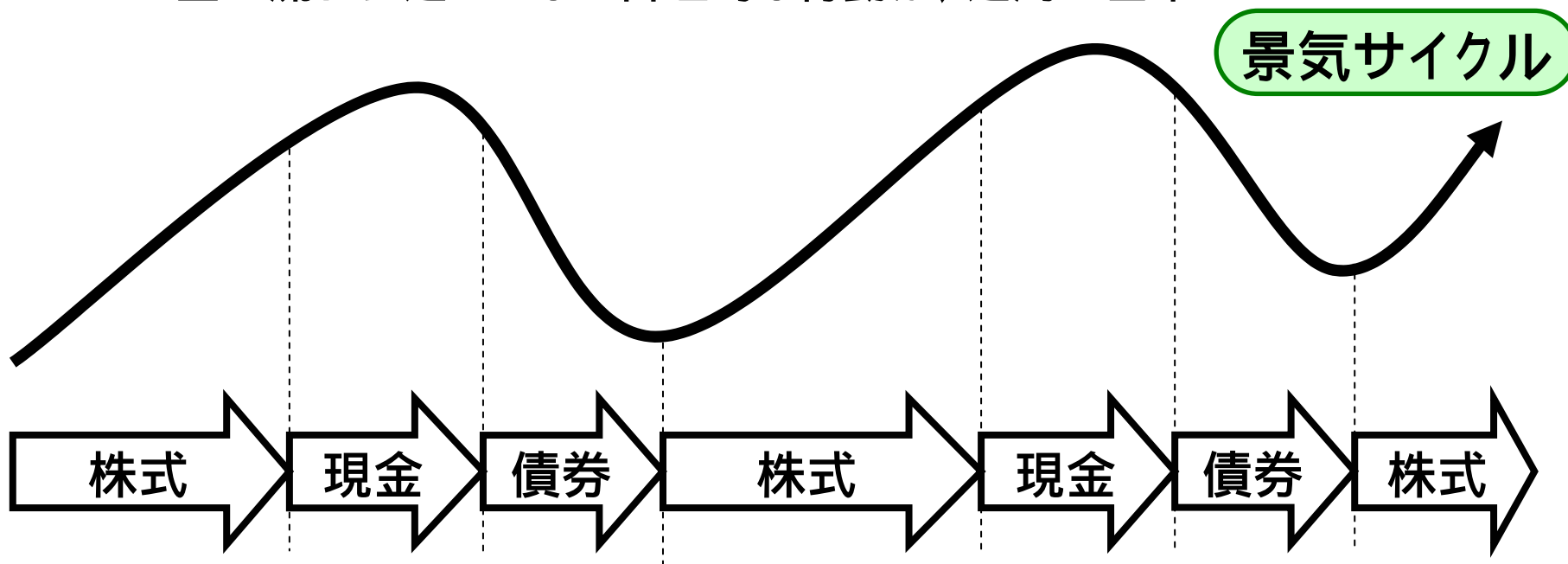
やはり運用するしかない

[4] 貯蓄の食い潰しがはじまっている



[5] 「お金の流れ」に沿って、投資対象をシフトしていくのが運用

- ◆ 経済全体の「お金の流れ」を先取りする
- ◆ 大河の流れに乗って行く意識
- ◆ お金の流れに逆らわない合理的な行動が、運用の基本



「アセット・アロケーションの切り換え」が投資運用の基本

[6] 景気の変動は「お金の流れ」でもある

◆ 経済では、誰かの損は必ず誰かの得となる (所得移転)

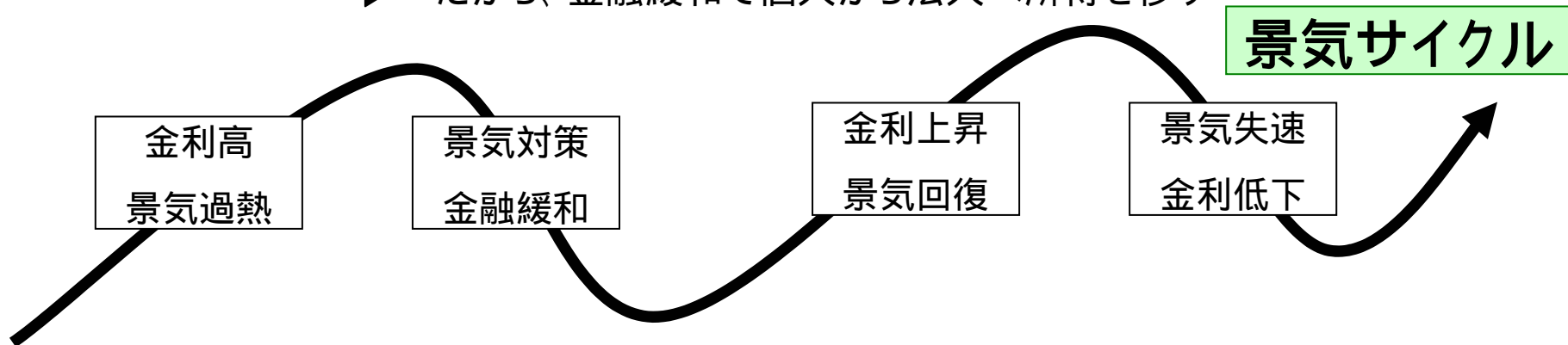
◆ 景気変動とは、所得が個人部門と法人部門の間を行ったり来たりすること

高金利時

家計は金利収入が多くニコニコ

企業はコスト高で真っ青

➔ だから、金融緩和で個人から法人へ所得を移す



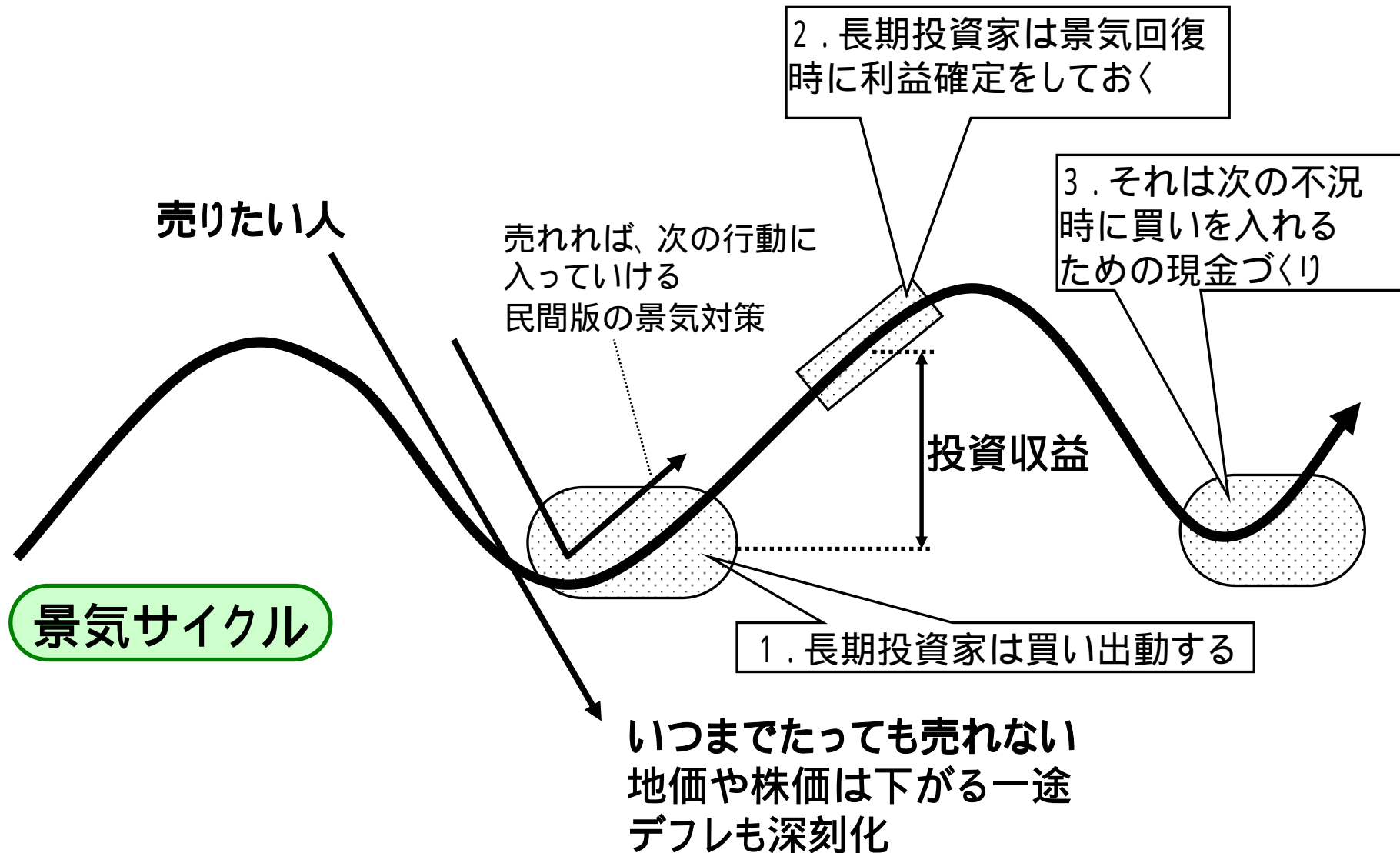
低金利時

家計の金利収入を減らして、企業へ所得移転させる

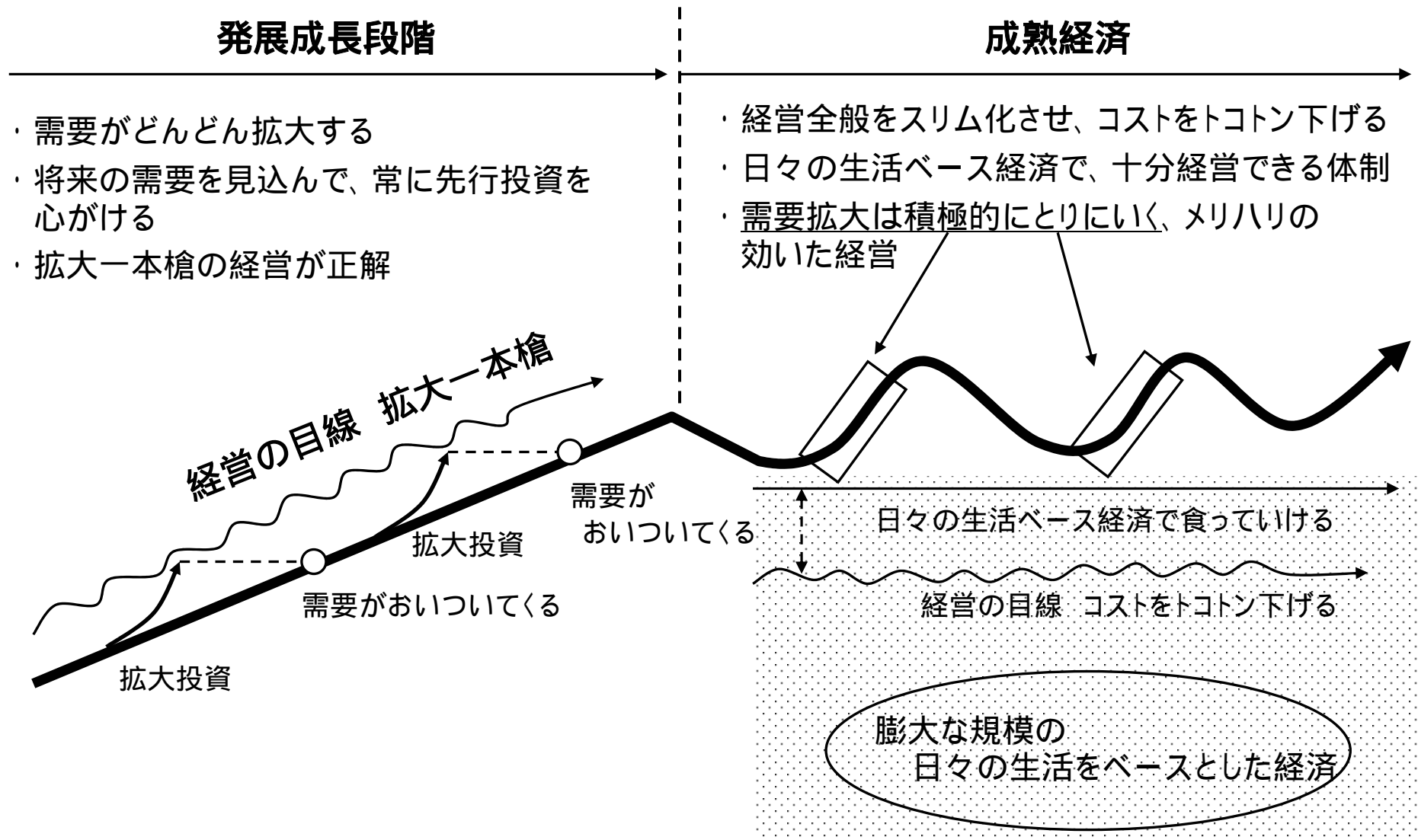
➔ 低金利は、積極的に拡大経営すべき時

➔ 家計は低金利でガマンしなさい

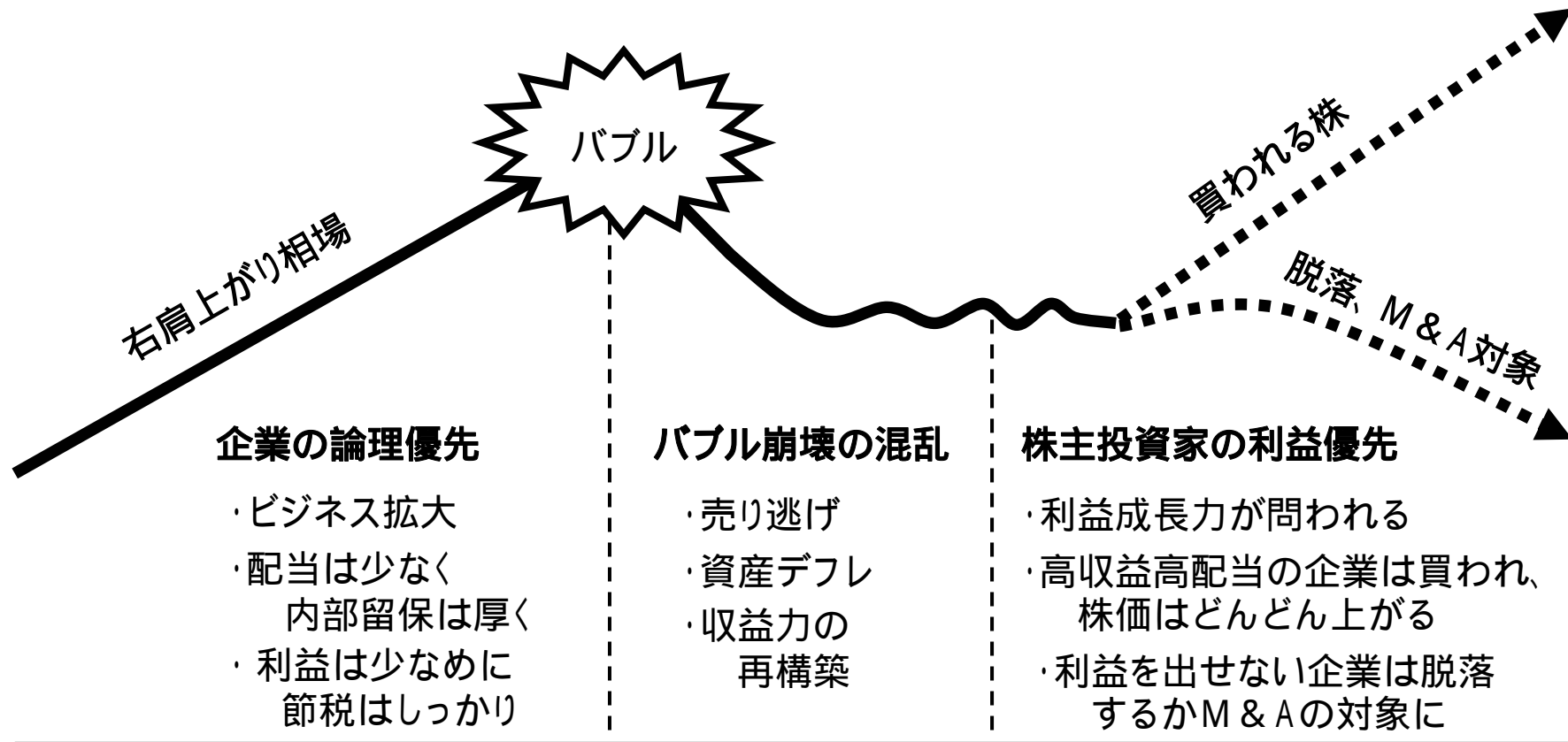
[7] いまここで株を買えば、民間版の景気対策となってしまう



[8] 企業経営の目線が変わってきた

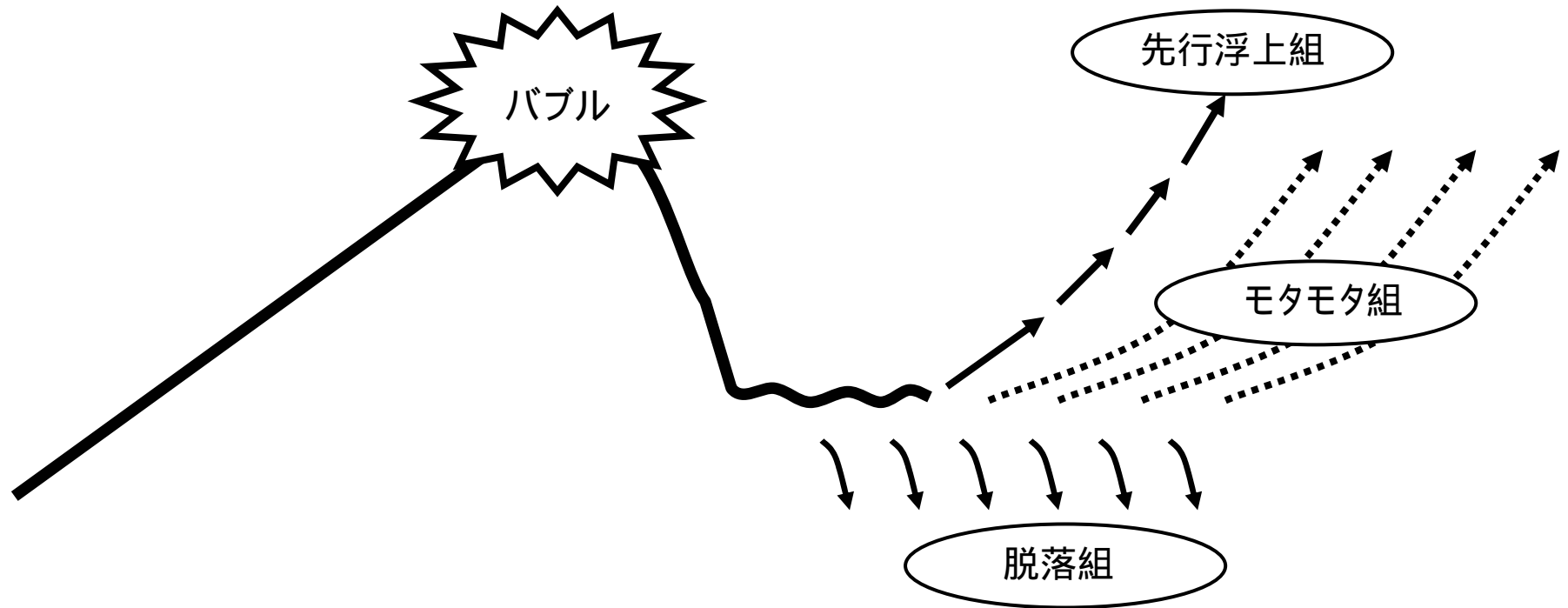


[9] 日本株の保有者が劇変 —— 株価形成も変わる



株式の持ち合い	54%	10数%
機関投資家	18%	20数%
法人保有比率	72%	40数%
外国人・個人	28%	50数%

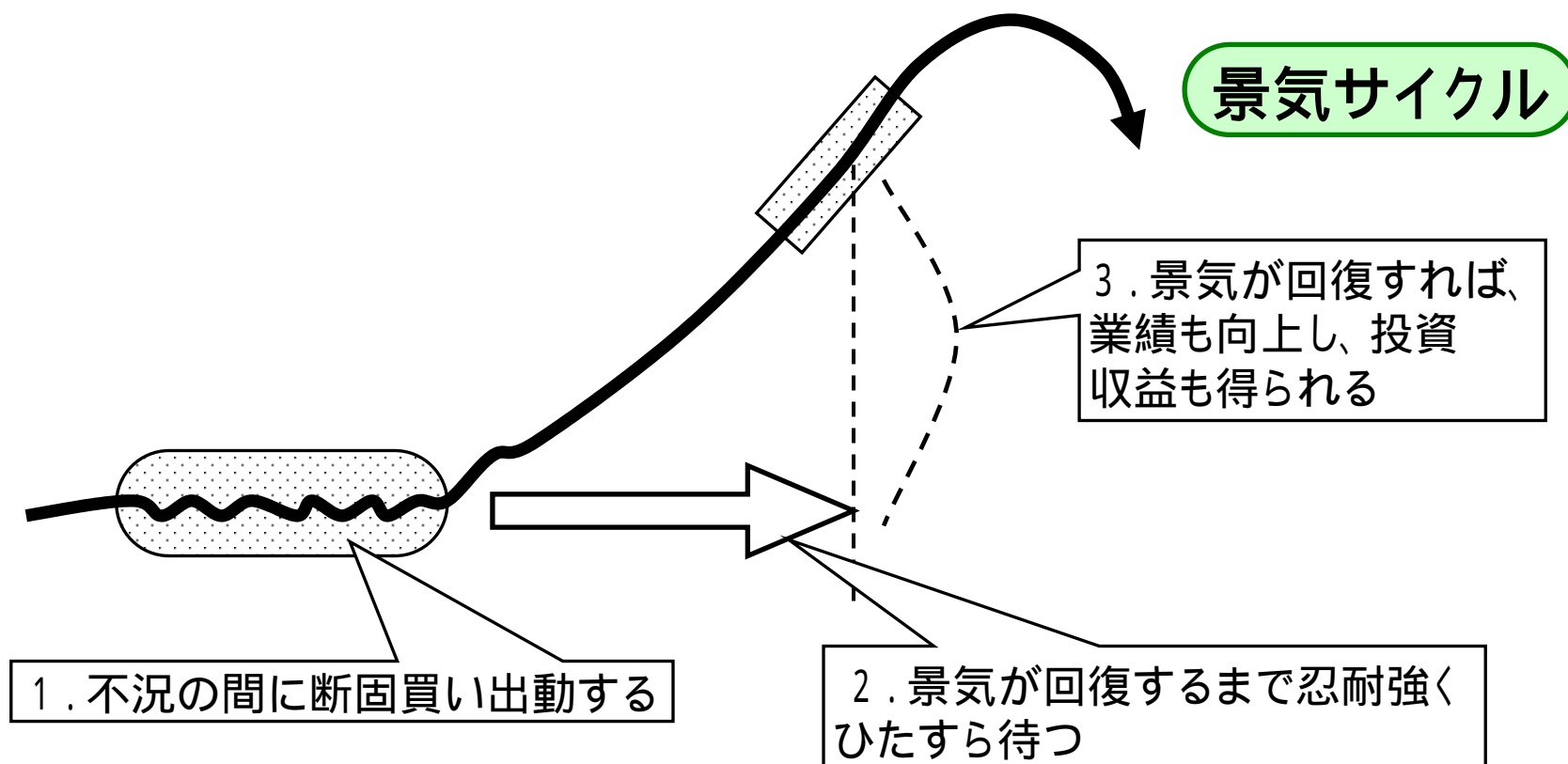
[10] 経営力によって、大きな企業間格差



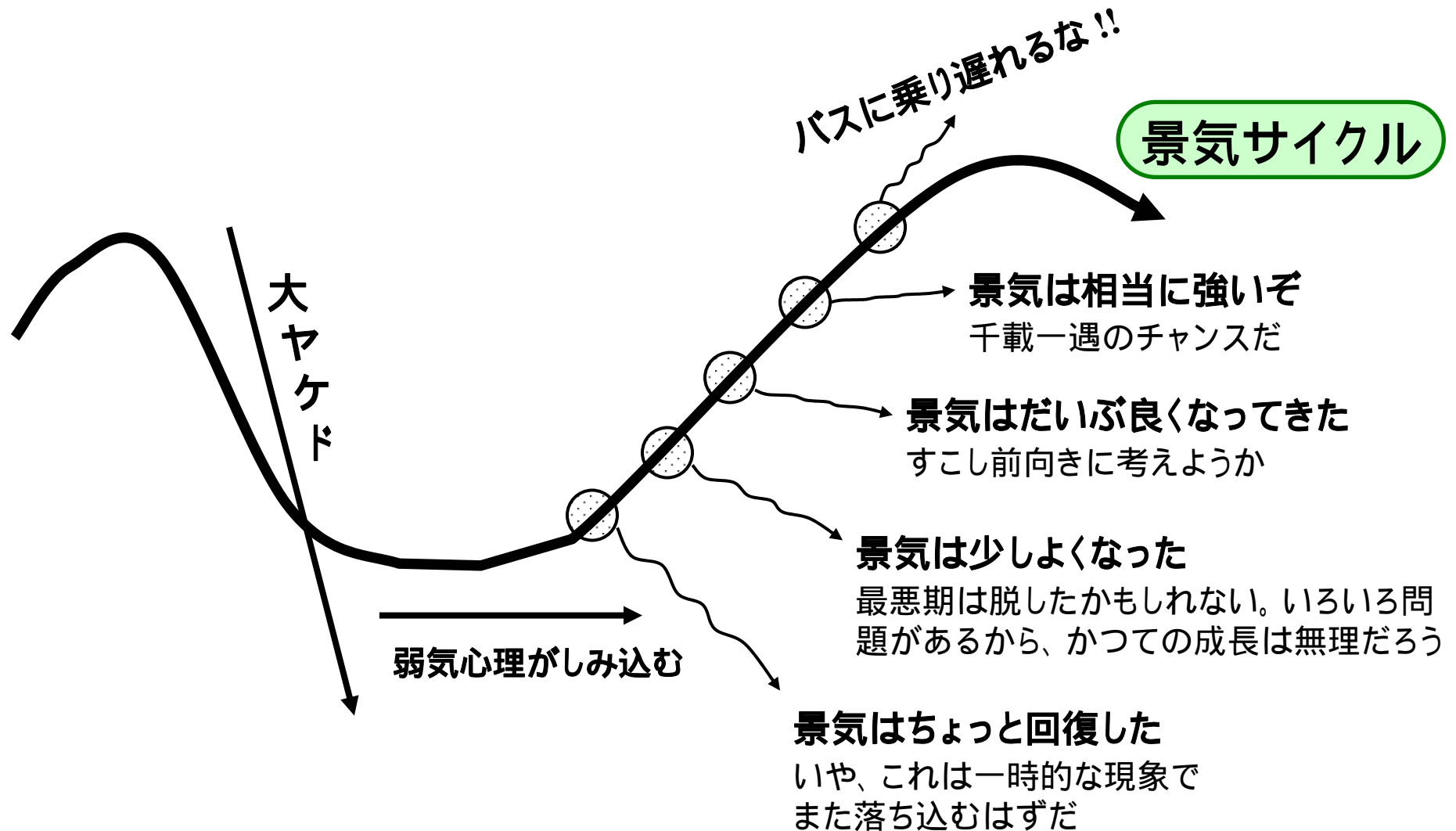
日本経済絶好調 バブル景気	不況・デフレ深刻化	強い企業から順に浮上 景気の本格回復
長期の右肩上がり相場	日本株全般が低迷	株価がどんどん上がる企業と消えゆく企業

[11] 「7年で2倍になればいい」 で、年10%の投資リターン

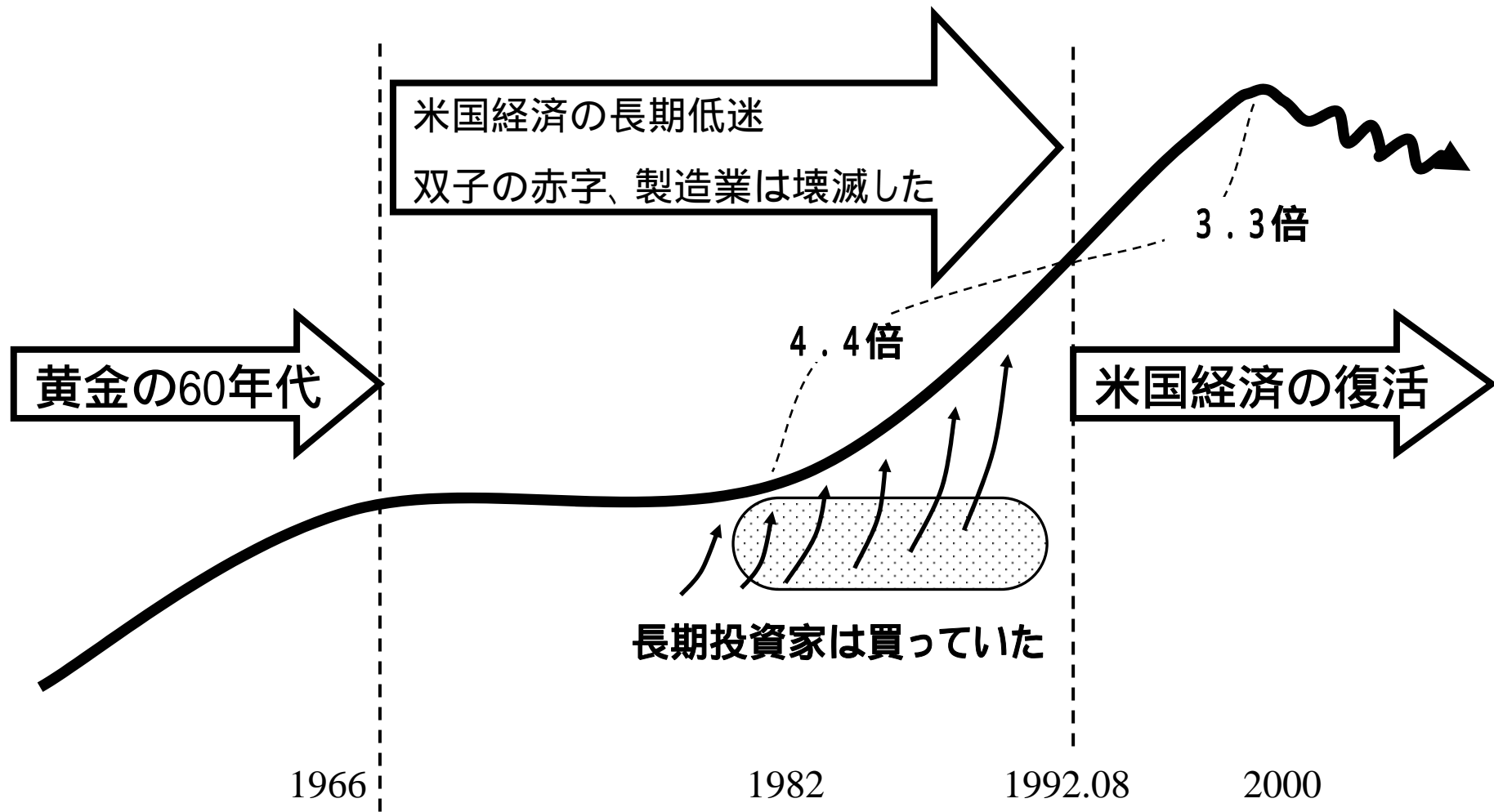
- ◆景気が回復すれば、多くの企業の株価は2倍や3倍になる
- ◆潰れていく企業の株を買わなければよい



[12] 景気サイクルと、人間の心理



[13] 米国株の復活話



[14] 長期で株式投資を考えよう

参考: 株式会社投資レーダー 月足30年 第60集

